

異文化間教育学会 2019 年度第 1 回若手研究交流会報告

若手交流委員会（渋谷・新見・金南・青木）

1. 概要

「異文化間教育学に関わる研究者・実践者のためのファシリテーション講座」

開催日：2019 年 10 月 19 日（土）13:00~18:00

開催場所：明治学院大学白金キャンパス 1253 教室

講師：グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）

シニア・ダイバーシティ・ファシリテーター 鈴木大樹さん

スケジュール：

13:00 - 17:00 ワークショップ

17:00 - 19:00 懇親会（教室にて会費制）

参加者：21 名（若手交流委員 4 名を含む）

2. 内容

若手交流委員会では、グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）シニア・ダイバーシティ・ファシリテーター鈴木大樹さんを講師として招き、「異文化間教育学に関わる研究者・実践者のためのファシリテーション講座」と題したワークショップを実施した。

ワークショップでは、参加者は円になって座り、鈴木さんが合宿や研修等で導入として行う「チェックイン」というアクティビティを体験した。このアクティビティでは、準備ができた人から自分のタイミングで、その時「感じたこと」を共有した。いいことを言わなくても良い、沈黙を許容する、基本として拍手はしない、などといったルールが提示され、参加者はそれらのルールに従って順に「感じたこと」を共有した。また、気持ちをシェアすること、順番を決めないこと、沈黙を許容すること、また、円になって座ること、といったチェックインの様々なルールや、フォーマットにどのような意味があるのかについて、参加者同士で考えを深めることができた。

ファシリテーションを行う上での、声の大小、話の抽象度の高低などを変化させるなどといった、効果的にファシリテーションをするためのスキルの紹介もあったが、良いファシリテーターであるためには、そういったスキルよりも、参加者との信頼関係・安心感・相手のことを思う真摯な気持ちといったような「ファシリテーターとしてのあり方」の方が重要であるということが、ワークショップの最後に強調された。



ワークショップの様子

3. 懇親会

ワークショップ終了後、引き続き会場にて、講師の鈴木さんと、参加者が和やかな雰囲気の中交流を行った。飲み物や、惣菜、パン、フルーツ、お菓子などを囲みながら、懇親会では、ファシリテーションに関連した様々な話題で盛り上がった。

4. 今後に向けて

今回のワークショップは、企業での勤務経験のある講師による実践的な内容であったということもあり、若手をはじめとして、ベテランの参加者の方にも大変ご好評いただいた。また、懇親会終了後までに、1名の大学院生が新しく学会に入会することを決めたと話しており、本学会の居心地の良い雰囲気を感じ取ってくださる機会にもなったようである。今後も、若手会員の共通した悩みや関心事をテーマとしつつ、ベテラン・若手の交流を図ることのできる企画を計画、実践していきたい。